



園芸療法通信 2023年1月号

発行 内閣府認証 NPO 法人日本園芸療法士協会
〒061-2276 北海道札幌市南区白川 1814 番地
TEL 011-817-2950 FAX 011-817-8007

御挨拶

あけましておめでとうございます。

卯年を迎え、令和4年のコロナ騒ぎに明け暮れた日々でした。しかし、当3法人はめげずに頑張り、クラスタも無く無事乗り切りました。事業は売り上げも順調に伸びながら推移しておりました。店頭には新商品として居酒屋メニューというおかずを並べてみたところ、好評を博しました。利用者の皆様は、前年度に比べ資格取得制度を活用する人が増え、制度の周知や意欲の向上を感じられました。喜ばしいことに、今年度は合格者も複数出る結果となりました。まさに職業リハビリテーションの成果が出てきた故のことと思います。

本年は、触法の人々の住居の確保と職業リハビリテーションを目的に、自立の道の計画を1月から進める所存です。法人のリハビリ店舗は着実に市民の皆様の中に定着し、炊き出しの無料弁当にもホームレスの人々にもわたる様になりました。今では毎月、実施日の第3金曜日には店舗で待っていてくれます。このような法人運営には、努力だけではなく、時の運もありと思う次第です。しかしその陰には皆様や、見知らぬ人々のあたたかい思いが飛んできて、支えとなってくれたのかなと感慨深く卯年を迎えます。皆様には幸せ多くあれと願ってやみません

本年もよろしくお願い申し上げます。

令和5年 元旦 理事長 瀬山 和子

～農福連携取り組みの現状について～

緑友会 津崎 秀樹

農福連携とは、障がい者等の農業分野での活躍を通じて自信や生きがいを創出して社会参画を促す取組で、農業生産における障がい者の活躍の場の拡大、農業を通じた障がい者の自立支援などを目指しています。このような動きは3年ほど前から省庁横断的に活発になってきていますが、当法人においては、それよりずっと以前から白川農園において障がい者の農業従事を実践してきました。そして、今、この白川農園での取り組みの対象者を犯罪者や非行少年にも広げて、現在の社会における生活困窮者の住居支援を行うことを目指しています。具体的には白川農園が令和4年1月に札幌市から農地の認定を受けたこと、また、白川農園内にある鉄筋コンクリート製3階建ての建物をグループホームにするための再整備を進めているところです。

農福連携の動きが活発になる中、当法人の園芸療法の考え方を基盤にした障がい者の再生と犯罪者の更生を目指す取り組みに対して農林水産省や北海道庁などの見学、参観が続いています。今後もこの理念に基づいた我が法人の取り組みを実現すべく、行政機関を始め各関係者に強く働きかけていきたいと思っております。

～令和4年度活動報告～

令和5年を迎え、みなさまいかがお過ごしでしょうか。
さて、当協会正園芸療法士のみなさまに、会報誌「園芸療法通信」をお届けしております。
令和4年の主な出来事としては、テレビへの出演や見学・講演会等の増加があげられるかと思えます。

- 1月 ・ 1年の段取・仕入が始まりました。
- 2月 ・ 自立準備ホーム勉強会にスタッフが参加しました。全国再非行防止ネットワーク協議会主催の会で、触法の人たちの支援に注力していく上で大変有意義な経験となりました。
- 3月 ・ 法人の年度末理事会を実施しました。
- 4月 ・ 北海道新聞社会福振興基金の小規模就労支援助成に応募。後に緑友会が助成決定しました。
- 5月 ・ 地元高校放送部の高文連大会用の昼食として弁当を仕出ししました。
協会の利用者さんが、ピアサポーター養成研修を受講し、無事修了しました。
- 6月 ・ STVの取材があり、豊平支部製造所を中心に、どさんこワイドで放映されました。
- 7月 ・ お盆の花の仕入が始まりました。また花保管用冷蔵設備の整備などを実施しました。
- 8月 ・ 札幌市の高等支援学校から見学の受け入れを行いました。
・ スクーリングを実施しました。今年度はコロナ関連で断念される方もおりましたが、実施自体は問題無く執り行うことができました。
・ お弁当の仕出しなどでお世話になっている地元高校の放送部について、高文連にて発表する映像作品への制作協力を行いました。障がい者の就労・支援に関するドキュメント作品制作のため、撮影やインタビューなど複数回の取材がありました。
無事、地方予選を突破し、全道大会まで進むことができたとのことで、喜ばしく思います。
・ 触法少年1名を、自立準備ホームで受け入れ開始しました。
・ バイオトイレ技術を転用したゴミ処理機を購入・設置しました。
- 9月 ・ 彼岸の仕入れ準備、12月の仕入予約が始まりました。
- 10月 ・ 高文連放送部大会の全道大会にて昼食の仕出しを行いました。
- 11月 ・ 道庁主催の、「女性農業者のためのスキルアップセミナー」にて講師を務めました。「園芸療法を学ぶ」というテーマで、講演に加えて、レイズドベッドを用いたポット苗の鉢植を実際に体験してもらいました。皆様に園芸療法へ興味をもてただけたと思います。
・ 受け入れしていた触法少年についての結審があり、少年院送致とはなりませんでした。
・ 正園芸療法士検定試験を実施しました。本年の受験者、合格者はともに2名でした。
・ 相談支援を行っているNPOにお弁当を仕出ししました。12月まで月2回程で実施しています。
・ ワークセンター店舗の利用者さんが、資格取得制度を使用し、検定を受験しました。
嬉しいことに、今年は合格者多数となりました。
- 12月 ・ 地元町内会や、小学校の支援学級の要請を受けて、しめ飾り製造体験・講習会を開催しました。
20年以上続いているところみですが、コロナ禍の中でも途切れず実施できていることにただただ感謝の思いです。
・ デイサービスの先生や子供たちの見学受入を実施しました。
・ 3法人合同パンフレットを更新しました。
新しくできた店舗などが追記されています。



今年年会員の方に発送させていただきました。め飾り・ハーブティは白川本部にて、クッキーは平岸の天人山ビル製造所にて手作りで作成しております。クッキーは最近無塩バターと塩を使うことで、より美味しくなったと評判です。め飾りは去年と同じく、「コロナ退散昇竜」になります。夫婦の龍神が協力し合って運を招くしめ飾りに、めでたい干支をあしらひ、更に疫病退散のお祈りを込めため飾りです。青森産ミヤマカンスゲが周囲の空気を清めてくれることでしょう。

～北海道新聞社会福振興基金 助成事業 緑友会～

本年4月に応募しました真空包装機の整備事業について、助成決定の通知がありました。緑友会の大空作業所では、おやきなどの菓子製造が作業の柱の一つになっているのですが、当日限りの商品が多いことが悩みの種となっておりました。お土産などに使いたい、遠方の知人に送りたい、という要望もこれまで何度かありましたが、保存料などを使わず自然の食材を基本としていくという方針から、賞味期限は当日限りとせざるを得ませんでした。

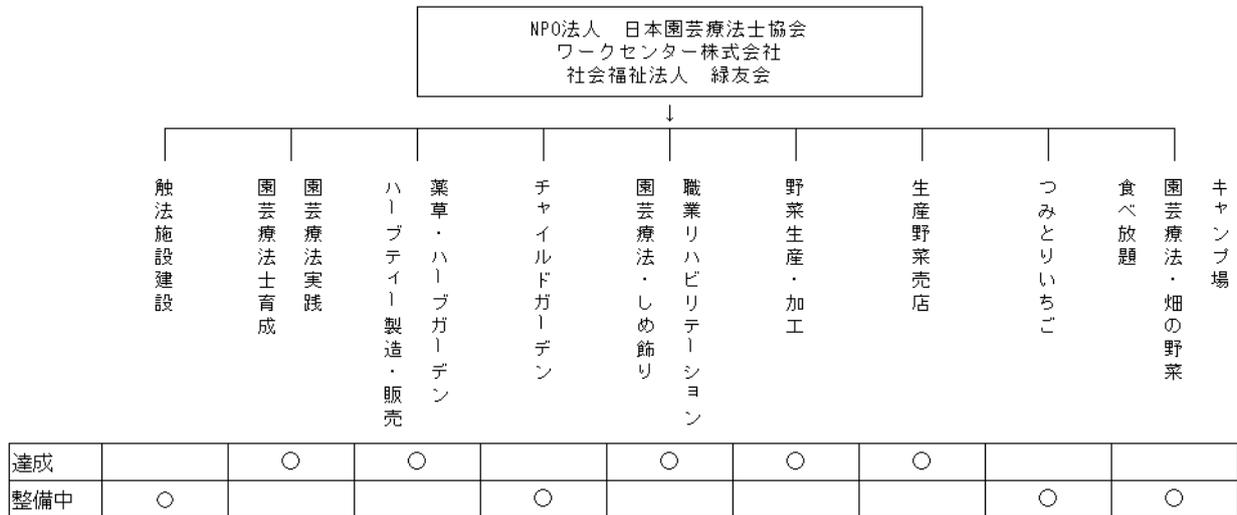
そこで前々より整備を検討していたのが件の真空包装機となります。真空状態で密封するため、通常の梱包に比べて長期間の安全性が確保できます。完成品はもとより、食材の保存についても効果があるため、様々な面でのコストカットにも役立ってくれるでしょう。加えて、以前から準備を進めていた漬け物についても、真空状態を利用することでより早く、深くしっかりと浸透させることが可能になります。商品のバリエーション増加面でも活躍してくれるはずです。

12月21日にメーカーのレクチャーがありますので、本格的な活躍は新年になってからになりそうです。



～弱者再生環境の共生ワーキング 進捗～

昨年から本格始動した共生ワーキングの進捗状況です。植物の環境の中において、人間を環境に欠かせない人々して捉え、植物環境の中で人間が心身ともに豊かになっていく構成です。もちろん、職業リハビリテーションも含まれています。触法施設も含まれます。



園芸療法士育成については全国から応募があり、一年のレポート提出と5日間の実習があります。植物がある季節に事業をしています。殆ど本州からの生徒さんとなっています。最近は職業として捉える考えで来ている人が多く見受けられます。植物を立派に育てることではなく、植物環境を利用して人間に接点を持たせて弱点を補う療法であります。癒しだけでなく、人間の心を回復させるのは、ちょっとした技術も必要で、その部分は「一本の・一枝の」植物が見せてくれます。命ある植物からの教えであります。現実、遠ざかった世界に私達は置かれているので、薬に頼ることが多いのです。そういったこともあり、療法士の卵になる人が生まれていってます